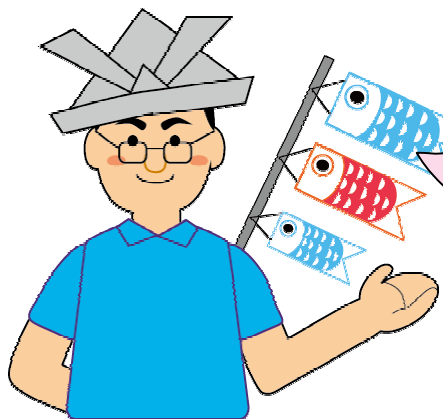


5月

# いけざわこども クリニック通信

Vol.164  
2016/05/01



今回の地震で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。まだ余震のたび不安がるお子さまも多いと思います。パンフレット「子どもの心のケアのために」を受付にご用意しました。心の傷を負った子ども達を支え、回復に役立ててくださることを願っています。

感染症情報	前回	今回 3/30~4/26
アデノウイルス	36	12
溶連菌感染症	9	6
感染性胃腸炎	45	34
水痘(水ぼうそう)	2	5
RSウイルス	0	2
突発性発疹	7	14
おたふくかぜ	28	28
インフルエンザA	65	6
インフルエンザB	165	50
マイコプラズマ肺炎	4	4

※毎年恒例「いけざわ・げん木」が4月に開花しています。院内の桜の手形は今月まで。震災に負けずたくさんのお花を咲かせましょう！！

※GW 中5/8日まで再春荘が時間外対応予定です。

(9時~21時まで)

## いけざわこどもクリニック 小児科・アレルギー科

住所	合志市野々島2461 (ユーパレス弁天 北側)
TEL	096-242-6633
ホームページ	<a href="http://www.ikezawa.org/">http://www.ikezawa.org/</a>
PC 予約	<a href="http://ssc.doctorqube.com/ikezawa/pc/index.htm">http://ssc.doctorqube.com/ikezawa/pc/index.htm</a>
Mobile 予約	<a href="http://ssc.doctorqube.com/ikezawa/">http://ssc.doctorqube.com/ikezawa/</a>
診療時間	8:30~12:30 /
休診日	木曜午後・土曜午後・日曜祝日



予約用QRコード →



## 乗り越えて

まさか熊本でこんなことが起こると思っていなかった。そしてもう一度あんな大きな揺れがくるとは思っていなかった。真夜中の大きな揺れに驚いて娘の名を叫んだ。ガシャンガシャンと割れる音の中、娘が慌てて階段を降りてきた。テーブルの下で身を寄せ合いながら体の震えは止まらない。子どもを守らなければならないのに「お母さん、大丈夫、大丈夫だから」と気づいたら娘が私の肩を抱き励まされていた。もしかしたらこのまま地面が割れて家ごとひっくり返って何かに押しつぶされて死んでしまうかもしれない、と本気で思った。家中の全ての明かりが消え暗闇の中何かが割れて転がる中、私たちは度々訪れる余震に何度も身を寄せあって励まし合いながら朝を迎えた。朝が来て、こわごわと表にでて「助かった」と思った。あの日の朝の光は大げさでもなく生きる希望のようだった。

夜中に大きな地震があったことを知った長女が東京から電話をかけてきた。知らなくてごめんと泣く声は私たちの声を聞いた安堵も混ざって、私まで泣いてしまった。あれから連日TVは熊本の町を映し出す。この熊本が被災地、と呼ばれていることに実感が無い。崩れた熊本城、落ちた阿蘇の橋に絶句した。

人の人生がこんなにもあっけなく変わるものかと思う。余震が少しずつ減っていき、学校が始まり、スーパーやコンビニに必要な物がやっと揃った。それでもあの日までの暮らしとあの日からの暮らしは私たちの中で多少なりとも変わってしまっ

た。大量の瓦礫やゴミの山を目の当たりにして、価値観も変わっていく。

人の人生は自然を目の前に思い通りにはならない。「一週間後にまたくるらしい」とか「一ヶ月後にまたくるらしい」とか統計だか予言だかわからない情報にモヤモヤとしながらそれでも家中のタンスや引き戸に張り巡らされたガムテープを思い切って剥がし、全ての写真立てをおこした。もう怯えながら暮らすのもいやになってきた。起こることを予測もできないし、起こってしまうことをナシにもできない。仕方なく受け止めて「そこからどうするか」だ。私たち親は子どもをいつまでも守ることなどできない。たとえ目の前の道が閉ざされても、また別の道を自分の力で切り開いてたくましく生きていける、そして自分の子どもを守りぬく強い大人になって欲しい。(先ずは自分がそうならなければいけないのですが)自分の人生に地震を体験すると思っていなかった、と娘が言った。私もそうだった。今回のことがこれからの暮らしや価値観を大きく変えることは間違いない。

今度はどんなことを体験するだろう。先の人生は予測もできないが辛い時に手を取り合って乗り越えていける周りの存在のありがたさにも改めて気付いた気がする。



(文責 池澤 千恵)